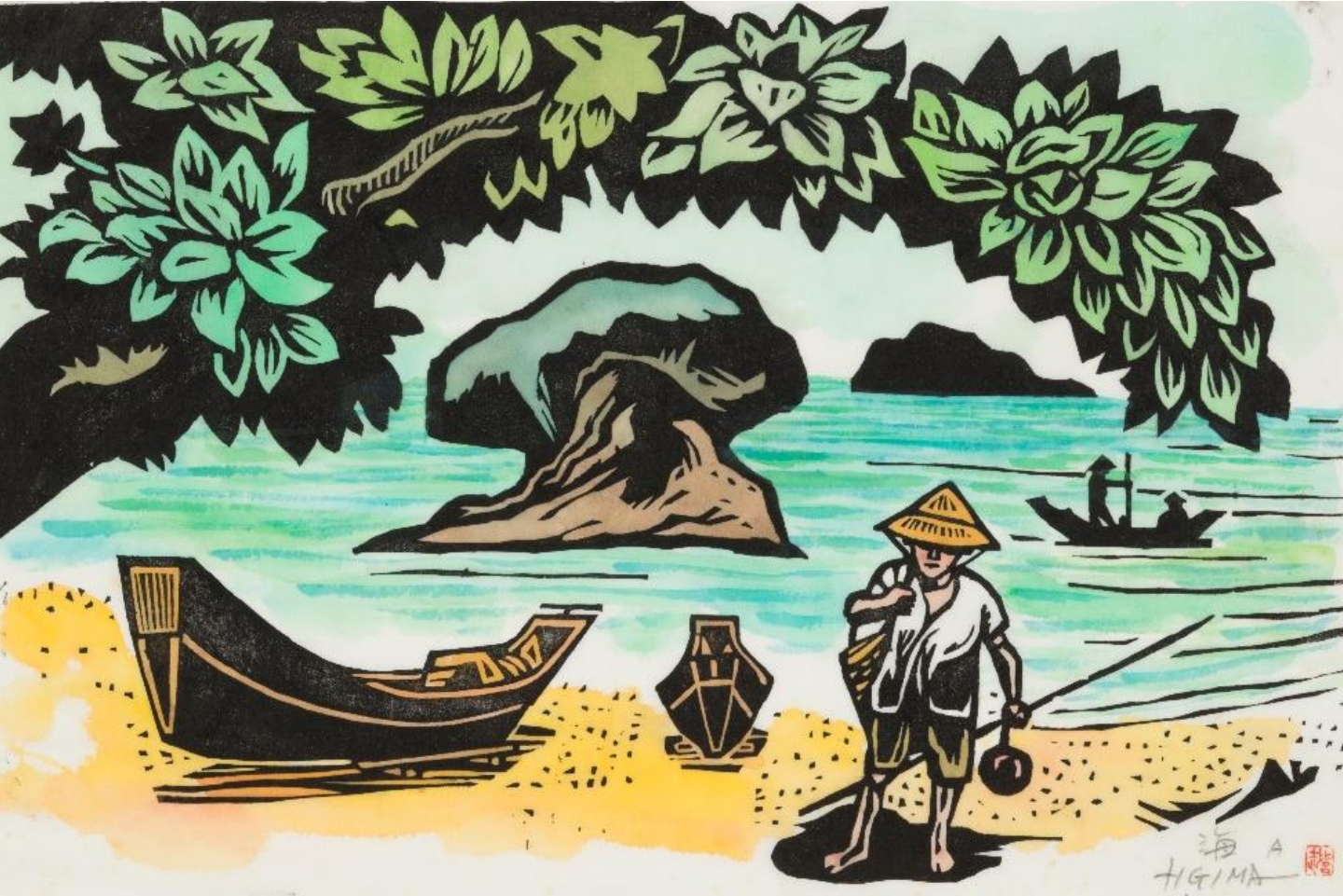


沖縄戦の後^{あと}を生きる



儀間比呂志「海」20世紀後半

2017.12.2 SAT
13:00-16:20

聴講無料
申込不要

立命館大学衣笠キャンパス
平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

パネリスト

- 富山 一郎 同志社大学 グローバル・スタディーズ研究科 教授
(奄美-沖縄-琉球) 研究センター センター長
- 謝花 直美 沖縄タイムス 編集委員
- 森 亜紀子 同志社大学 日本学術振興会特別研究員

司会

- 番匠 健一 立命館大学国際平和ミュージアム
平和教育研究センター リサーチャー

沖縄の戦後は、戦争で荒れはてた地が元通りに復興していくことではなく、継続する戦争の前線基地になることでした。その意味で沖縄は終わらない戦争の渦中にあり続けています。

沖縄の戦後を生き抜いてきた人々の歴史を考えると、「私は戦後生まれなので沖縄の歴史はなかなかわからない」（菅官房長官）という政府からでた発言は、戦後日本がその始まりにおいて何を排除したのかを、ありありと浮かび上がらせます。そして、多くの人々がいっている「平和な戦後日本」という自画像にも、同じことがいえるでしょう。

沖縄について語ろうとするのなら、原点をしっかりと見つめ直さなければなりません。

主 催：立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター
共 催：同志社大学<奄美-沖縄-琉球>研究センター

問い合わせ：立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター
TEL: 075-465-8354 Email: peaceins@st.ritsumeikan.ac.jp

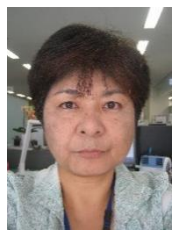
沖縄戦の後^{あと}を生きる



富山 一郎

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科 教授
〈奄美-沖縄-琉球〉研究センター長

ずっと沖縄については考えていますが、最近はやや言葉が退き、暴力がせりあがってくる状況の中で、どのように言葉の場所を確保していけばいいのかと悩んでいます。著書、『流着の思想』（インパクト出版会）、『暴力の予感』（岩波書店）、『増補 戦場の記憶』（日本経済評論社）、『近代日本社会と「沖縄人」』（日本経済評論社）他。



謝花 直美

沖縄タイムス 編集委員

沖縄タイムス本年連載に「砲弾の島 伊江島 LCT爆発事件」、「ミシンの歌 戦後史それから」、「心縛 沖縄戦と共謀罪」。著書、『戦場の童 沖縄戦の孤児たち』（沖縄タイムス社）、『証言沖縄「集団自決」』（岩波書店）、共著『観光コースでない沖縄 第4版』（高文研）他。



森 亜紀子

同志社大学
日本学術振興会特別研究員

沖縄から旧南洋群島へ移民したひとびとの移民・戦争・引揚体験とその記憶について研究しています。著書、証言集『日本統治下南洋群島に暮らした沖縄移民』（新月舎）、『複数の旋律を聞く』（同）。



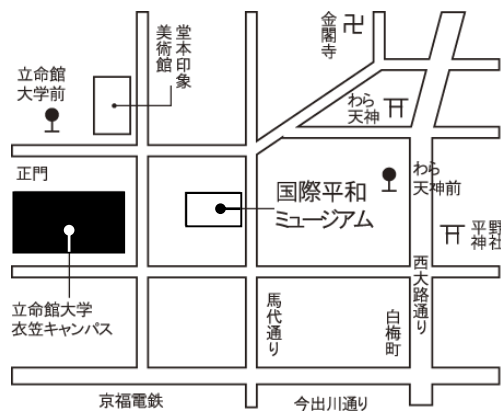
番匠 健一

立命館大学国際平和ミュージアム
平和教育研究センター リサーチャー

同志社大学〈奄美-琉球-沖縄〉研究センター研究員。北海道史、植民学の研究者。著書、西川長夫・大野光明・番匠健一編『戦後史再考』（平凡社）。

プログラム

- 13:00-13:05 **ご挨拶** 平和教育研究センター
センター長 モンテ・カセム
- 13:05-13:15 **趣旨説明** 平和教育研究センター
副センター長 加國 尚志
- 13:15-14:45 **パネリスト報告**
パネリスト
富山 一郎、謝花 直美、森 亜紀子
- 休憩 —
- 15:00-16:00 **パネルディスカッション**
パネリスト
富山 一郎、謝花 直美、森 亜紀子
司会 番匠 健一
- 16:20 **閉会**



市バス12・15・50・51・55・59, JRバスにて
「立命館大学前」下車 徒歩5分
市バス204・205にて
「わら天神前」下車 徒歩10分
※お車での来館はご遠慮下さい。